

# 「平成」から「令和」へ？ 日本はどこへ行くのか

西谷 修

2019/05/19

小金井市市民会館萌え木ホール

# 「平成」から「令和」の世替わり

- これが言えるのは日本だけ！元号があってよかったね！
- 天皇の代替わりに元号を変える？
  - 元号は中国にならって、「大化」(645年)以来。律令制(唐の国家制度)の制定。
- 孝明天皇没(慶応二年一二月二五／三十日)翌一月睦仁親王踐祚の儀(継承)
  - 慶応三年一月、元服とともに即位の礼(満一五才)、一二月大政奉還、一二月新政府
  - 慶応四年九月、明治改元「一世一元の詔」(遡って適用、1868年)
    - \* 誰が決めたのか？ 民衆にとっては降ってわいた。その名残り。
    - \* 太陽暦採用(明治六年一二月五日／明治七年一月一日:1873年)にも関わらず
- 明治天皇死去(61)が最初の「世代わり改元」(明治四五年→大正元年:1912年)
  - 国民が「一時代が終わった」と感じる。cf.) 夏目漱石『こころ』
  - 世界は第一次世界大戦に向かう(1914-18年)
- 敗戦(無条件降伏)で国家体制が変わる(89年／M22年の帝国憲法⇒日本国憲法、天皇の性格も変わる:人間宣言)。元号、一世一元に根拠がなくなる。
- 1979年「元号法」制定。1989年、昭和→平成(喪と継承と改元)。政府は抑制的。
- 今回、天皇と政権と対立すると見えたため、天皇に共感が集まった分、皇位継承・改元は無批判に受け入れられ、とくにメディアはまったく迎合した。日本はそういう国(天皇が代わると世が変わる、「万世一系」というフィクションがまかりとおる)。
- オリンピック機運と重ねる。日本バンザイが大っぴら。「お国のため」の無理がとおる。

# 「平成」とはどんな時代？

- 「平成」の30年＝1989年から2019年まで。  
ちょうど「冷戦終結」から「グローバル化」、「アメリカ強」のもとでの「市場原理主義＋テロとの戦争」による統治とその内部崩壊の時代に重なる。
- いま世界も「グローバル化」のネガティブ効果で、各国が「内向き」になり、「自国ファースト」的政府が次々に出現、世界が新段階に入ろうとしている。
- 歴史修正主義(国家主義、敗戦勢力)の復活
- ネオリベリズムによる社会構造の変革  
(日本:アメリカの要求とグローバル経済への適合――「失われた20年」)  
→対米追従の深化と「自立」の喪失
- 雇用状況を変える(労働権利から消費者へ)  
規制緩和(公共資産の市場放出、事業の民営化)→アメリカ市場へ提出  
企業活動の自由化(グローバル化へのサポート)  
自衛隊海外派兵(国際貢献の名目の軍事化、しかし対米奉仕≡「日米同盟」)
- 右翼(反動)勢力と新自由主義との結託  
民主主義、人権、平等に向けての保護、等々の清算  
⇒ 社会の新たな階層化(格差拡大固定、それを新「自由」派が行う)
- PRメディア社会(かつてのプロパガンダの経済化・日本なら電通)

# 何が起こったのか？

- バブル崩壊、リクルート疑獄（冷戦⇒湾岸戦争）
- 「ふつうの国」幻想、軍隊をもつ（世界に軍事貢献）
- 自民党政権下野（⇒二大政党幻想）／社会党自滅と政界再編、行政改革（構造改革）
- 村山談話（95）／沖縄問題と戦争肯定勢力の再結集（⇒日本会議へ）
- 景気低迷、就職氷河期、「失われた10年」（⇒やがて「20年」）
- 成長型経済の終りと「日暮れ」の気配、「（「少子高齢化」）
- 東京（もっとも豊かな地域）の現状安住ポピュリズム化（石原都政）
- 地域利権配分型自民党政治の崩壊（小泉改革）／社会性の解体と「自己責任」の時代へ  
アメリカへの盲従⇒軍事・経済の「日米同盟」／拉致問題による「悪（敵）」の創出
- 自衛隊の国軍（軍部）化⇒世界米軍への統合（⇔「テロとの戦争」）
- 東日本大震災＋福島原発事故⇒混乱⇒「強い国」幻想に収斂／背景に韓国・中国の台頭  
（惨禍の原因反省からの復興ではなく、責任解消）  
→「ガンバロー・フクシマ」で克服、「放射能なんて怖くない」！ ⇒2020東京オリンピック誘致  
（異論の封殺、NHK、日銀、内閣法制局 etc. 秘密保護法）  
→「一億総活躍」への世情動員
- 子供をあらかじめ動員（高齢化）、女性を動員（最後の要員）  
→しかし新たな政治主体に（これまで消費対象だった）。世界的傾向
- 子どもの貧困、教育崩壊（教員疲弊）、母親・女性の負担

# ガレー船国家



# グローバル化：更新される課題

- 世界戦争後（世界的「再生」元年）の原則  
フィラデルフィア宣言、国連、世界人権宣言  
これが出発点⇒冷戦後に再浮上
- まず「戦争制限」の動き、それが「冷戦終結」後の方向  
⇒ 戦争の解消 ⇔ 「テロリスト」の発明
- 市場一元化（経済基盤）を国連体制（諸国家協調）で  
維持発展  
⇒ 国連のSDGs（持続可能な開発目標）
- 力で決める（軍事力依存）傾向の回帰
- 「地球温暖化問題」（←「成長の限界」）の否認